

青い空の彼方に広がっている宇宙。何万光年、何十億光年の彼方からこの地球へと旅をしてきた夜空の星のきらめき。きっとどこかで行われているであろう生命のいとなみ。光が1年をかけて進む距離は、9兆460億km。これは地球から太陽までの6万3千倍に当たります。星を仰ぎ見るとき、私たちは何百万年前、何億年前の宇宙に出会っている。それら万千の星々の輝きがこの地球に集い、あの美しい夜空、《私たちのいま》となってくれているのです。太陽と地球の距離は1億5千万km。太陽からの光が地球に届くのには8分。その光は太陽深部で水素がヘリウムに変わる核融合反応のエネルギーです。そのエネルギーが対流となって表面上昇してくるのに10万年。今から10万年前に太陽の内深いところで生まれて、何ともスケールの大きな熱対流によって上昇してきた、その光と熱の恵みをいま私たちは受けているのです。現在地球上には73億を超える人が住んでいます。この地球に生命が生まれたのは38億年前。この地球上のどの生きものもみんな体の中にその時間を湛えているのです。38億年前に海の中にいた祖先細胞から長い時間をかけて今の姿にまでなってきた。その一つひとつはそれだけで時を送っているではありません。みんなつながり合って生きている、生命の歴史の最先端の存在なのです。

今という時、そして、ここにいるという事実は、何という深さと広がりを持っているのでしょうか。その事実を、お釈迦様は「山川草木悉皆成仏(山も川も草も木も、ことごとく皆な成仏している)」と、《ある》というかけがえのない意味深さ、その尊さに、目と耳と心とを開くことを教えてください。大谷がそのようなひろやかな共存と深い共感に満ちた時と場としてはたらき、大谷に身を置くすべての一人ひとりが「大谷の子」として育ち合い、「大谷われら(大谷の校歌より)」として新たなそして確かな繋がりの中で成長されんことを願っています。



飯山 等
学校長

わたしを、育て合う。

